

プロジェクト決定要綱

作成日	2009/10/5
作成者	石松宏章 栗山明子 川崎洋

目的 毎年行われる各代のプロジェクト決定を円滑に行うため。また、団体にとってプロジェクトの方向性は団体の方向性を大きく左右するものであり、どの代になってもその方向性を誤らないために、プロジェクトを決定する際に留意しなければならない、ぶれない軸を明確に代々に伝えていくため。

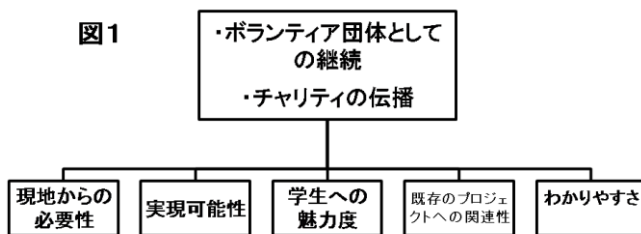
扱い この要綱は、2010年9月に開かれるOB総会で配布する団体定款に記載される。それ以降は、正規の改正手続きを踏まない限り、原則不動のものとする。

考慮すべき点 まず、なぜプロジェクトを毎年決定し、実行するのかという点、主に2つある。

一つはカンボジア支援のボランティア団体という、団体の定義が崩れずに団体が継続していくように、支援を毎年行い、どの代でもカンボジアの方々生活に貢献できる団体であるため。

もう一つは、団体自体の目的に、「学生でも行動すれば、何かできる」ということを伝えることがあり、その「何か」を実際にプロジェクトを実行して実績を残し、提示するため。これによりボランティアカルチャーの伝播を可能にするためである。

では、この二つを可能にするようなプロジェクトには、どのような特色があるものでなければならないのか。これに基づいてどのような要素を持つプロジェクトを選ばなければならないのか。当団体のプロジェクトには、①カンボジア現地にとっての必要性が高いもの②実現可能性が高いもの③学生にとって魅力的であるもの④歴代の当団体のプロジェクトに関与したもの⑤一般的な人にとってわかりやすいもの、この5つの要素があるものが望ましい。この5つのものは、上記の二つのことを達成するのに必要な要素である。



①カンボジア現地にとっての必要性

当たり前のことではあるが、本当に現地が必要としている支援でなければならないということである。もしそうでない場合、日本の学生がやりたいことをやっているだけの、ボランティアでも何でも自己満足の活動になってしまう。この現地からの必要性は、より多くの人々が、長期的に助かるものを、そして与えるだけではなく現地の方の自立に繋がるものを専門家と相談し、総合的に考えて必要性の高い、低い、を決定する。

②実現可能性

いくら素晴らしい支援が出来るとしても、その支援がいか八かの成功率のものでは、団体の信頼性に関わる。当団体がカンボジアに送金するお金は、団体のお金というより、団体のイベントに来て下さったお客様のものであり、お客様がある程度納得できるように、決められた期間である程度の実現性が求められる。ただでさえ、カンボジアでの事業は、日本の感覚では進まない。物価の変動や、政治情勢、天気気候、文化習慣宗教、インフラ設備、全てが異なるため、日本での事業よりリスクが高い。それを踏まえて、団体の支援の規模や期間に合っているようなものを選ぶ。

③学生にとっての魅力

どんなに意義のある支援でも、学生へのチャリティの伝播を考える際、地味で意義を感じにくいもの、堅苦しいと感じられる、学生にとって距離のあるものではない。面白そう、凄いやってみたい、と思えるようなものが理想的。これは、学生であるメンバーのやる気にも直接関わってくる。

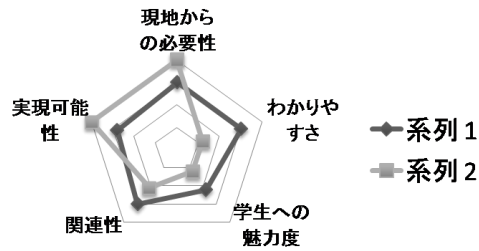
④歴代の当団体のプロジェクトに関与

継続的な支援というものが、国際支援には重要だと言われている。短期間で、何かを作って満足して撤退する団体は沢山ある。それは現地の人にとっては、やはり先進国の自己満足に見えてしまう。本当にカンボジアを救いたいと思って活動しているということを伝えるためにも、毎年スタディツアーで視察し、歴代のプロジェクトにもし、まだ追加の支援が必要な場合、進んで歴代のものを振り返り、関与していく姿勢が必要。何年たっても、当団体が手がけたプロジェクトにはいつの代でも団体として責任を持って取り組むことが、日本でも、カンボジアでも団体の信頼性を得るためには必要である。また、新しいプロジェクトを考える際、今後、永続的にそのプロジェクトに責任を持たなくてはならないことを視野に入れて、決定すべきである。必要な支援は溢れているが、まず当団体がやってきたことに責任を持つことが、GRAPHISが行うべき、GRAPHISらしい支援である。

⑤一般的な人にとってわかりやすいもの

よく、支援に真剣に取り組んでいると、とても専門的なものが必要になってくる。しかしあまりに目に見えにくい、支援が本当に実施されているのか分かりにくい、その活動の意義が予備知識、専門知識がないと理解されにくいものは、

日本のボランティアに興味のない人にとっては距離を感じやすい。広く当団体の活動を知ってもらうため、そして、その活動に良い意味で興味を持ってもらい、疑問を持たれることなく活動を認めてもらうためには、わかりやすい支援内容が好ましい。特に説明に時間がかかるものは、疑問を持たれやすく、メンバーからも疑問が湧くような入り組んだ内容のものは人々の受け取り方も多様化してしまい、在らぬ噂の元となる傾向がある。



この5つの要素の関係性であるが、どの要素をとっても当団体にとっては必要不可欠といって良いほど、大切なものである。何か一つ欠けることは、ボランティア団体としての継続と、ボランティアカルチャーの伝播の達成が損なわれる可能性が高まる。そのため、5つの要素がバランス良く含まれているプロジェクトが当団体のプロジェクトには好ましい。つまり、左の図でいうと、系列2のプロジェクトは現地からの必要性や実現可能性は、とても高く評価できるが、それ以外の要素が著しく低い。それよりは、系列

1の著しく評価の低いものがない、バランスのとれたプロジェクトが好ましいということである。

5つの要素の中で優先順位が必要と思う人もいるかもしれない。しかしここで優先順位をつけてしまうと、その要素が満たされていけば良い、というようなバランスの悪さが生じてくる。あえて優先順位をつけず、5つを同等にすることで、全てを満たそうと、考察する際の視野が広まり、慎重にプロジェクト決定ができるのではないかと考えるため、優先順位はない。

以上のことを踏まえて、ボランティア団体としての当団体の継続と、ボランティアカルチャーの伝播を念頭においてプロジェクトを決定し、実行、達成し、結果を残すことを毎年幹部代は約束して欲しい。